

祝甲田中学校男子ハンドボール部 全国大会初優勝！

選手一人一人に役割がある
誰が欠けてもだめなんだ

チームづくり

生徒には学校生活が一番大切であり、向き合う姿勢や心構え、気持ちを大切にすることが、ハンドボールの実力につながるのだと日々言い聞かせています。ハンドボールは7人で試合を行います。試合に出場する子だけが頑張っても優勝はできません。一人一人が自分の役割を果たしたからこそ、優勝することができました。昨年の悔しい思いをバネに、女子ハンドボール部とも互いに刺激を受けあいながら、いいチームづくりができました。

これからの目標

夏の全国大会で好成績を目標にしています。地域に根差した湧永製薬さんとも連携を図りながら、練習も増やしていきたいと考えています。この目標のために、今の選手たちが誰一人欠けてもいけません。みんな一人ひとり大事な役割を持っています。保護者のみなさん、地域のみなさんにも支えられて、さらに成長していく子どもたちに期待してください。



甲田文化センターで行われた祝賀会の様子

第11回春の全国中学生ハンドボール選手権大会で甲田中学校ハンドボール部男子が見事初優勝を飾りました。優勝までの軌跡を監督と優秀選手に選ばれた3人の選手に聞きました。

ハンドボールの魅力とは

スピード感とダイナミックなテクニクを取り入れた頭脳を使ったスポーツです。サッカーなどと異なり、試合中に攻めと守りのポジションが頻繁に変わります。そのため、ほとんどの選手が、攻撃も守りもこなすことができます。対戦相手に応じて、攻撃や守りの体系を変えていき、ハンドボールの技術だけではなく、チームプレーが大切な魅力的なスポーツです。



キャプテン 山崎 京 (3年)



副キャプテン 山住 連 (3年)



司令塔 小野 勇輝 (2年)

一試合一試合を大切に 集中してプレーした

小学校のとき、友達にさそわれたのをきっかけに、ハンドボールを始めました。ハンドボールは、シュートを決める楽しさがあります。皆が息を合わせ、パスを出すタイミングをとるむずかしさもあります。今回の大会では、優勝する自信はありませんでしたが、練習もしっかりとやってきたことで、先のこととは考えずに一つ一つの試合に集中することができました。また、最後まであきらめずにプレーすることができました。その結果、優勝することができました。夏の全国中学校選手権大会でも、一試合、一試合に全力でプレーします。

練習はつらいが、それより結果を出したい

兄の影響で小学校からハンドボールをはじめました。ハンドボールは、チームプレーなので、みんなとピタッと息を合わせて一緒に競技する楽しさがあります。甲田中のチームワークは、最高です。監督は、普段はやさしく、練習ではきびしいところがありますが、自分たちの自主性を尊重してくれたいと思います。練習はつらいけど、結果を出したいと思う気持ちの方が強いんです。しっかりと走りこんで体力をつけてきたことは、自信につながりました。湧永製薬ハンドボールチームの今井さんを目指し、これからもハンドボールを続けていきたいと思っています。

チームワークと速攻が 僕たちの武器

小学校のとき、いこの練習を見に行ったことがきっかけで、ハンドボールをはじめました。シュート、特にジャンプシュートが決まると最高に楽しいです。逆に、練習でシュートが決まらないときは、シャトルランなど体力強化を重点的に行います。練習の量も多いので、ついときもありません。今回の大会は、チームワークと甲田中の速攻が全国に通じた結果、優勝できたと思います。試合中は、他の選手の動きをしっかりと見て、調子のいい選手に多くパスをまわすことができました。これからも、ハンドボールを続けていきたいと思っています。



甲田文化センターで行われた祝賀会の様子

3年	浅井 天汰	3年	山崎 京
3年	稲垣 真宏	3年	大立 浩史
3年	山住 連	3年	谷本 翔希
2年	大田 義也	2年	小先 勇輝
2年	笹村 拓斗	2年	首藤 岳飛
2年	原田 晋平	2年	前川 大樹
1年	山崎 怜	1年	首藤 颯汰
1年	中野 駿介		

試合結果 (3月26日~29日:富山県氷見市)

- ★第1試合: 甲田中 30 - 18 大住中 (京都府)
- ★第2試合: 甲田中 32 - 29 安居中 (福井県)
- ★準々決勝: 甲田中 38 - 37 氷見南部中 (富山県)
- ★準決勝: 甲田中 36 - 29 滝ノ水中 (愛知県)
- ★決勝: 甲田中 29 - 28 戸塚西中 (埼玉県)

監督 竹本 秀樹

甲田町出身。
母校の甲田中学校にハンドボール部の監督として平成26年より就任。科目は保健体育。

